

インフォメーション

問い合わせ：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp

☆ 奇数月最終金曜の夜はサポセンに集合! サポセン フライデー

11月のサポセン フライデー

日時: 11月29日(金) 19:00~20:00 (18:30開場・入退場自由・申込不要)

会場: 仙台市市民活動サポートセンター 1Fマチノワひろば

参加無料・ソフトドリンク飲み放題・駄菓子食べ放題/当り年は「戌年」「亥年」ですが、当り年以外の方も参加できます。仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)には、地域の課題解決や地域の魅力向上に取り組む人たちが、それを支える市民の皆さんが来館しています。そんなサポセンユーザー(来館者)の皆さんが、気軽に集まり、交流できる場です。

団体でも個人でも、市民活動団体でも企業でも町内会でも教育機関でも、行政や外郭の人でも、サポセンのヘビーユーザーから、まだサポセンに入ったことのない方まで、地域のことに関心がある人ならどなたでも参加OK! みんなでワイワイ楽しく、交流しながら、顔見知りを増やし、様々な形でまちづくりに取り組む皆さんがつながる場になればと思います。



サポセンスタッフから



地域で活動する人たちが
応援する冊子を
市民ライターと編集集中!

地域で活動する団体や個人の方々をご紹介します、「地域のためになにかはじめてみたい」「課題解決に向け、活動を広げたい」と思いを持つみなさんに役立つような冊子です。市民ライター講座を卒業した市民ライター7人と一緒に作っています。

発行は年明けを予定。活動の様子はサポセンブログでお知らせしていきますので、ぜひご覧ください。
(松村・水原)

21期 事務用ブースの使用者追加募集!

【使用期間】2020年2月1日~8月31日
(最長3年まで使用可能ですが、継続にあたり毎年審査があります)

対象: 継続的に市民活動を行い、市内に専用事務所をもたない団体(事業者を除く)

【募集数】1ブース

【設備等】机、椅子、ロッカー

【面積】4㎡

【使用料】月額7,200円

【申込受付期間】

2019年10月28日(月)~12月6日(金)まで※ただし土・日・祝日は除く

【申込受付時間】

午前9時から午後5時まで

【応募方法】仙台市市民協働推進課と市民活動サポートセンターにて配布の申請書に団体の活動内容が分かる資料等を添えて、市民協働推進課へご持参ください。(郵送不可) (仙台市ホームページからもダウンロードできます。https://www.city.sendai.jp/)

【問い合わせ/申込み】

仙台市市民協働推進課
仙台市青葉区二日町1-23
アーバンネット勾当台ビル2階
TEL 022-214-1089

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい/団体を立ち上げたい/組織運営の悩みを解決したい/他の団体や他のセクターと連携したい/自分のスキルを地域や社会に役立てたい...

今月の休館日 11月13日(水)、27日(水)

開館時間 月曜日~土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日)年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ/地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分
[HP]https://www.sapo-sen.jp [Blog]http://blog.canpan.info/fukkou/ [Twitter]@SCSC4CA

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日~2020年3月31日]

市民ライターが、仙台の市民活動団体やワクワクビトを取材しています!

▶市民ライター
http://blog.canpan.info/fukkou/category_23/1

▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。
▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっとと読者アンケート] サポセンホームページからアクセス
いただくか、携帯電話等で2次元バーコードを読み取ってご利用ください。



発行 仙台市市民活動サポートセンター
発行日 2019年11月1日
編集 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター
デザイン PEACE Inc.
編集人 太田貴 菅野祥子 松村翔子 水原のぞみ 小林正夫
発行部数 3000部
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

ぱれっと

サポセンは2019年6月に開館20周年を迎えました!

祝

11



仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2019 No.243

「ぱれっと」には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。



仙台をワクワクさせる人物をご紹介します

今月のワクワクビト

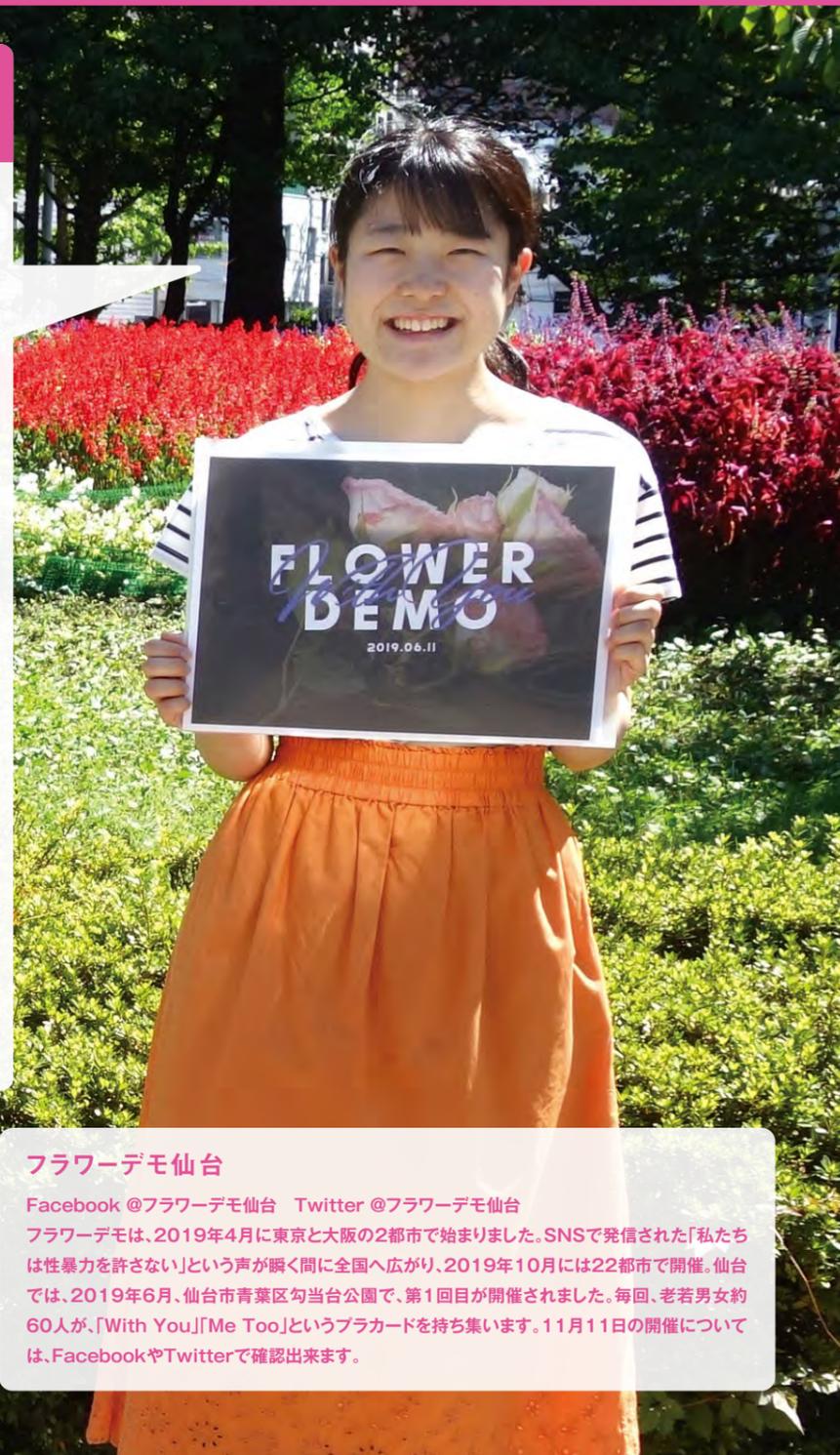
フラワーデモ仙台 発起人 東北大学2年生

ましこみか
益子 実香さん (19)

自分が生きる世界を諦めたくない

「社会的地位や力関係により抵抗できなくても、性的同意があるものと判断されたり、12歳の娘に対する父親の性暴力が無罪になったり…。被害者が黙らざるを得ない社会の現状に愕然とした」と、益子実香さんは話します。毎月11日、益子さんは仲間たちと仙台市内でデモ活動をしています。花束を持ったり、花柄の服を着たりして集うから「フラワーデモ」。「あなたは一人じゃない」という気持ちを花に込めます。大学入学後、サークル活動をきっかけに、様々な角度から社会問題を考えるように。2019年3月、次々報じられる性暴力への無罪判決にやるせなさを感じていたとき、SNSで「私たちは性暴力を許さない」と声を上げるデモを目にしました。益子さんは思いを重ね、「誰か仙台でもデモを」と願いました。しかし同年6月、デモの先頭に立ったのは益子さん自身でした。「性犯罪被害の話聞くのは辛いし、人前に立つのは正直怖い」と明かす益子さんを支えたのは、回を重ねるごとに増える仲間の姿。「おかしいと思ったことを、おかしいと言えない社会を変えたい」。益子さんは、今日も自ら声を出し、共感の輪を広げています。

取材・文 水原のぞみ



特集

生きづらさを抱える子どもたちをサポートする
~子どもの夢をかなえるプロジェクト~

レポート!

思い出に花咲く、
参加者が主役のまち歩き

フラワーデモ仙台

Facebook @フラワーデモ仙台 Twitter @フラワーデモ仙台

フラワーデモは、2019年4月に東京と大阪の2都市で始まりました。SNSで発信された「私たちは性暴力を許さない」という声が瞬間に全国へ広がり、2019年10月には22都市で開催。仙台では、2019年6月、仙台市青葉区勾当台公園で、第1回目が開催されました。毎回、若者男女約60人が、「With You」「Me Too」というプラカードを持ち集います。11月11日の開催については、FacebookやTwitterで確認出来ます。

地域の課題を解決するために、様々な立場の人たちがコラボレーションする取り組みをご紹介します

生きづらさを抱える子どもたちをサポートする ～子どもの夢をかなえるプロジェクト～

悩みや困りごとを抱える人の電話相談をする「仙台駆け込み寺」(以下、駆け込み寺)と、地域のスポーツ振興に取り組む「一般社団法人SC.FIELD」(以下、SC.FIELD)が、学校や社会の中で生きづらさを感じている子どもたちへの理解を広げ、子どもたちの夢を応援しようとして、それぞれの強みを活かし取り組むプロジェクトを紹介します。

子どもの夢をかなえるプロジェクト ゆめのおむすび

子どもたちが安心して
自分を表現できる場づくりをしたい



相談員
(ゆめのおむすび代表)
みや たすみれこ
宮田 穂子 さん



事務局長
おり かしえいこ
織笠 英二 さん

----- 仙台駆け込み寺 -----

スポーツを通して子どもたちが
チャレンジできる場を提供したい



代表
おほ さか
大坂 ともお さん

----- 一般社団法人SC.FIELD -----



子どもたちが自分らしくいられる場

「子どもの夢をかなえるプロジェクト ゆめのおむすび」(以下、ゆめのおむすび)は、発達障がいのある子どもや、その傾向はあるものの診断基準を満たしていない「発達障がいグレーゾーン」と呼ばれる子どもたち、学校へ行きづらい、人と関わりづらいなどの気持ちを抱えている子どもたちの支援をしています。毎月第4日曜日、青葉区春日町にあるサロンスペースに、小学生から高校生の子どもたち、時にはその家族が集います。歌を歌ったり、絵を描いたり、自分を表現することを楽しんでいきます。令和元年度の「仙台市協働まちづくり推進助成事業」に採択され、東北福祉大学の学生ボランティア、画家やスポーツ関係者の協力を得て活動を展開しています。プログラムの基盤にあるのは、対人関係や集団行動を営んでいくための技能を修得するソーシャルスキルトレーニング(以下、SST)です。駆け込み寺の相談員で、ゆめのおむすび代表の宮田穂子さんは、「自分の気持ちを言葉にすることや、感情のコントロールが苦手な子の多くは、学校などの集団生活に馴染めずにいる」と指摘。SSTにゲームや音楽、スポーツ、おむすびを握る昼食づくりなどを取り入れ、自分を表現したり、他者とコミュニケーションを図ったりする機会を増やしています。駆け込み寺とゆめのおむすびの事務局長、織笠英二さん

は「子どもたちの持っている個性や才能を引き出したい。色々な経験を重ね、自分で考えたり表現できる機会を増やすことで、好きなことが見つかったり、自信につながったりする」と、続けます。

専門分野を活かした協働

宮田さんは、駆け込み寺で相談員をしながら、普段は放課後等デイサービスに勤めています。放課後等デイサービスは、学校の終了後又は休日に開設している通所支援サービスです。対象は、小学生から高校生までの障がいのある子どもです。医師の診断書を持たない児童は原則、サービスの対象外。「福祉や医療の支援の枠から外れ、児童館などの集団の場にも溶け込めない子どもは、家で過ごすことが多くなってしまふ」と、社会との関わりが希薄になり、居場所が無くなっている子どもたちがいる現状に危機感を抱いていました。一方、駆け込み寺には、子どもの引きこもりや発達に悩む家族からの電話相談が多く寄せられていました。宮田さんの課題意識と、普段の活動から見てきたニーズが重なり、駆け込み寺はゆめのおむすびを立ち上げました。SC.FIELDの大坂ともおさんは、運動や体育が嫌いな子どもが多いことや、子どもたちが思いっきり身体を動かせる場が少な

くストレスが溜まりやすくなってしまふことに課題意識を持ち、スポーツを通じた子どもの居場所づくりに取り組んでいます。ゆめのおむすびの活動では、団体のネットワークを活かしてプロのチャリダーを招き、子どもたちがダンスを踊る機会を提供。大坂さんは、「子どもたちが身体を動かすことを楽しみながら、苦手なことにもチャレンジして、自信をつけてくれたらいいな」と話します。

人と人とのむすびを大切に

宮田さんは、「最初は周囲の友達と馴染めず、ぶっきらぼうだった子が、参加するうちに年下の子どものお世話をしてくれるようになりました。次はこんな遊びをしたい」と自分の気持ちを言葉にすることも増えました」と、話します。「子どもの変化や成長を見ることは、家族の安心にも繋がる」と織笠さん。子どもだけではなく家族の居場所にもなっています。宮田さんは、「周囲の人たちに、子どもたちの個性を理解してもらえよう、広く伝えていきたい」と話します。生きづらさを抱える子どもたちやその家族だけで悩みを抱えるのではなく、地域の人たちみんなで子どもを支えていける社会を目指します。(取材・執筆 舞草小春)

●子どもの夢をかなえるプロジェクト ゆめのおむすび
〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-3 仙台市市民活動サポートセンター7階 事務用ブース NO.5 仙台駆け込み寺内 Mail yumeno.omusubi@gmail.com



活動に役立つ書籍をご紹介します

お役立ち本

「若者支援」のこれまでとこれから
協同で社会をつくる実践へ

著者:若者支援全国協同連絡会・編 発行所:株式会社 かもがわ出版

若者支援という言葉は、全国各地で耳にする機会も多くなりました。しかし、具体的な活動や、どのような支援が必要なのか、不明瞭な点が多くあります。この本では、若者の「生きづらさ」や社会的孤立などに向き合ってきた取り組みの事例が紹介されています。社会の状況とその背景、政策動向や現場の実践、支援者の立ち位置など、さまざまな論点や課題が一冊に詰まっています。



活動を始める一歩を応援します

コトハジメ

小物づくりと販売のお手伝い募集
「工房すぴか」

さをり織りでの製品づくりを主とする就労継続支援B型事業所で、障害者のしごとを支えるボランティアを募集中。

活動日時:月～土曜日の10:00～15:00(販売時は応相談)
活動内容:販売会や、ミシン掛けのお手伝い、見守りや声かけ支援、織り体験ワークショップ支援
※ミシン・ワークショップの研修あり
交通費:支給なし(マイカー通勤不可)
申込み・連絡先:NPO法人 煌の会 (かがやきのかい)
〒983-0038
仙台市宮城野区新田1-5-44
TEL 022-781-5272
(月～土9:30～17:30)
FAX 022-781-5472
Mail kagayaki.sendai@outlook.jp ▲さをり織りの様子



市民ライター 阿部哲也さんの突撃レポート!

取材団体名 / 宮城野原案内人の会

思い出に花咲く、 参加者が主役のまち歩き



▲「一緒に歩きましょう」と呼びかける
矢吹さん、菅野さん、山田さん、佐野さん、星さん(左から)

連絡先 宮城野原案内人の会(事務局 菅野)
連絡先: 080-1676-1146

まち歩きというと、ガイド役が参加者に地域の名所や歴史を教えるというのが一般的です。宮城野原案内人の会では、参加者同士が思い出話や知識を共有することを大切にしています。事務局の菅野光男さんは「散策する先々で盛り上がる思い出話を楽しみに参加する方も多い」と話します。開催は、毎月第3水曜日午前中。桜の季節には清水沼公園界隈を、七夕の時期には飾りで賑わう原町本通りなどを散策します。年2回、講師を招いて公開講座も企画。現在9人の会員が活動しています。

会員のほとんどは、宮城野区中央市民センターが実施してきた「宮城野原案内人養成講座」の卒業生。市民センター職員に背中を押され、2017年度に自主

サークルとしてスタート。はじめは10人にも満たなかった参加者が、今は30人になることも。まち歩きの準備では、地域の人に取材などをし、情報を収集。会長の矢吹保夫さんは「計画と準備、検証が大切。反省点が多くても落ち込まず、次に活かすよう心がけている」と運営のコツを教えてくださいました。人気が高いコースは、仙石線の消えた踏切跡を辿るコース。仙石線の地下化と共に消えた踏切の記憶と記録の伝承にも力を注ぎ、踏切跡に案内板を設置することを区に提案。2年間で4ヶ所設置されました。

平日は参加できないという人のために、個別ガイドも検討中。「より多くの方に宮城野原を身近に感じてほしい」と皆さんは次の展開を見据えています。